

2012年 日本生理学会編集・広報委員会議事録

日時： 2012年3月28日 於 松本市 ホテルブエナビスタ

出席者： 小西真人、上田陽一、尾野恭一、久野みゆき、小林 誠、佐藤元彦、相馬義郎、
多久和典子、村山 尚、毛利 聡、渡辺 賢

議題（審議・報告）：

1. メンバー交代

2012年度からの新メンバーを委員から推薦した。専門分野、地区などを勘案の上、心当たりの先生に声をかけることとなった。

2. 日本生理学会雑誌に発表するサイエンス論文は、利益相反について明記することになった。

3. 日本生理学会雑誌の EBSCO 収載が決定

目次が英訳され、本文は紙面のまま収載される。インターナショナルに発信したい場合は英語表記を併記する。

4. 学会事務局の業務を外部に移転することが検討されており、総会で決定される予定。

以上、2, 3, 4は会員に周知することが必要である。

5. 日本生理学会雑誌

(1) 発行形態： 2012年から奇数月の隔月刊となっている。

サイズは現在 B5 版だが、JPS や他学会雑誌では A4 版化が進んでいるので、今後、A4 版への移行について検討していく。

(2) 表紙：ポスターの図の掲載を復活させる。各号 1 題で 1 年分なので 6 題が必要となる。第 89 回松本大会のポスターから予備を含めて 7-8 題程度選定して発表者に依頼する。表紙はカラーが望ましい。

(3) コンテンツ

①継続するコンテンツ

Vision： 岡田泰伸先生（その3）、栗原 敏新会長、小西 真人先生

Opinion： 早石 修先生、伊藤正男先生、大槻磐男先生、小川靖男先生、廣重力先生、
富田忠雄先生、宮崎俊一先生、香川靖雄先生など（小西先生から御依頼いただく）

・以上 2 項目は、職位・研究歴・年齢に関係なく、広く原稿を受け付ける。依頼原稿は生理学会員でなくとも可。

・**Vision, Opinion** というタイトルは身構えがちなので、これに替る親しみやすい雰囲気
のタイトルがあれば変更の可能性もあり、要検討。（ちなみに、生化学会雑誌では
「atmosphere」、日薬理誌では「Agora」、生物物理では「巻頭言」）

・上記に例として挙げられた大御所の先生方には、その時歴史が動いた瞬間の前後の
消息をお書き頂くシリーズとし、将来、書籍として編纂することも視野に入れる。

Science Topics： 筆頭著者は生理学会員とする（学会員でない場合は、この機会に入
会していただく）。研究の背景が専門外の人にもわかりやすいように、また、サイエ

ンスの内容を充実させた原稿を掲載（～1200字）。図表1個まで（オリジナルと同一ではないものとして著作権の問題を回避）、reference 5個まで（first authorのみ、タイトルなし）。本文のスペースが少ないので、タイトルを小さめにすることを検討する。

Awards：大会の学会各賞のほか、ポスター賞、グループディナー(GD)賞、地方会賞などが対象候補。**Awards** が一体どれだけあるのか、まずは具体的にリストを作成する。賞によって重みづけを加え、大きな賞は経歴などを加えて大きく扱う方針とする。

Afternoon Tea：従来どおり。著者は生理学会員とする。

Education：教育委員会に企画・編集していただく。久野先生から教育委員会へお願いしていただく。

若手のページ：小西先生から、以前より温めていた企画として提案があった。若手の会の先生に編集・広報委員会に入っていただき、企画・編集していただくコーナーとする方向で検討する。

Calendar：発行時点で古くならない学会・セミナーなどの情報とする。

Profile：各委員が地区内の新任教授就任情報を収集して委員会に伝える。

Book Review：従来どおり。

Abstracts：地方会抄録は英文タイトルを併記可とする（EBSCO 収載により国際的にアクセス可能となるため）

②中止するコンテンツ

Information HP のみにて新鮮な情報を提供する。

Hello PSJ 原稿が集まらないので中止とする（ただし、原稿が有れば掲載も可）。

③新企画

1) 学会シンポジウムのオーガナイザーにとりまとめと全体の解説を依頼し、シンポジストに発表内容を原則として日本語で解説していただく（800～1200字、reference含む）。研究の背景・意義が専門外の人にもわかりやすいように、記述をお願いする。図表1個まで、reference 5個まで（first authorのみ、タイトルなし）。招待講演の場合は生理学会員でなくとも可。今大会は予め周知していないので、強制はしない。

2) 学会、大会の各賞受賞者にシンポジスト（上記）と同様な形式で受賞内容について記述してもらうことも検討する。

3) 座談会あるいはインタビュー形式での記事の企画が提案された。現在の巻頭言やオピニオンは多少固すぎるので、もう少し平易に読めるコンテンツの一つとしての位置づけである。ただし、テープ起こしなど実際の作業負担も検討することが必要である。